

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 22 年度

事業所番号	2779101589		
法人名	特定非営利活動法人訪問介護ほぐち		
事業所名	グループホームまつひろ		
所在地	大阪市淀川区三津屋南2-18-5		
自己評価作成日	平成 22年 11月 5日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101589&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2779101589&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 23年 1月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の残存能力を尊重し、自立に向けて支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特定非営利活動法人が訪問介護と居宅介護支援センターと共に運営しているグループホームです。住宅街の中にある社宅を改装して設立し、2階建て1ユニット9名の利用者が暮らしています。運営者は、地域の自治会班長も務め、近隣との関係作りにも努めています。今年度は利用者家族共々交流会を催し、屋外ランチパーティーを開きました。「まつひろだより」を毎月発行して行事の写真等を掲載し、家族へ報告しています。食事は3食手作りを心がけ家庭的な味を提供し、「美味しい」と利用者から好評です。2階ホールには多目的室があり、利用者が自由にくつろげる雰囲気を作っています。ホーム2階へは昇降椅子を設置し、容易に昇降できるよう配慮しています。利用者は日中洗濯物たたみや野菜の筋取りをしたり、手作りのゲームを作成したりして、アットホームで自宅に大勢の家族と暮らしているような雰囲気を醸し出しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に近づける様に日々共有し、実践につなげている。	「入居者の安全を守り、安心できる暮らしを提供する」をホームの理念として玄関に掲示しています。住み慣れた地域でその人らしく穏やかな生活を送っていただけるよう努めています。職員は毎日の業務を通じて理念を共有し、介護サービスに生かしています。	事業理念には地域密着型サービスの意義をふまえた表現を盛り込むことが望まれます。新しい理念の作成にあたっては全職員で話し合い、利用者家族や地域の方々と共に実践につなげることを望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に入会し代表者が、町会の一年の行事を通じて協力している。	代表者は地域の自治会に加入し、自治会班長として長年務めています。また、自治会の定例会議への参加や、町会員宅へ集金等で訪問するなど、近隣との交流を図っています。また、公園清掃や夏祭り、秋祭り、餅つき、年末夜警等にも利用者や職員共々参加しています。また、食材等の買い物は地域の商店を利用し、交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	利用者様・ご家族・町会・地域の方とまつひろの敷地内で、バーベキューをして交流がありました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1度開き、家族・地域包括・民生委員・町会長との話し合い、問題点・課題点を話し合っている。</p>	<p>運営推進会議の規程を定めています。会議は家族、地域包括支援センター職員、民生委員、町会長、管理者、グループホーム代表が参加し、2ヵ月に1回開催しています。グループホームの運営状況や活動内容、研修の報告を行い、参加者からは要望や助言を得ています。災害時における地域との協力体制についても話し合い、駐車場を地域の避難所に決めたりしています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>福祉事務所のケースワーカーと情報や実情を、やり取りしている。</p>	<p>区の担当職員とは困難事例を相談したり、利用者の要介護認定など介護保険の各種更新のために出向いたりしています。区主催の事業者連絡会やグループホーム連絡会に参加し、他事業所と相互交流の一環として、職員が見学や交流をして学び合っています。また、福祉事務所のケースワーカーとも情報交換を行い、利用者への訪問もあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>認知症の重い方がおられて、安全保障の為、内鍵方式で施錠しております。</p>	<p>全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の引き戸は施錠していますが、内から開ける事ができ、外出の希望がある時は職員が見守りで対応しています。また、毎週ミーティングの時も職員間で気づきを話し合い、会話の仕方、言葉かけは適切か、身体の虐待はないか等話し合い、お互いに注意しあっています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な会議で、気づいた点を話し合い虐待を見逃さない様、心がけています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的な会議で少しずつですが、勉強する機会を設けております。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の日時を設けて理解・納得を得られるまで、話しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付け箱を設けて、意見・要望と運営推進会議の時に、意見を交わし合って運営に反映させています。	家族に運営推進会議の参加を要請し、家族の面会時には利用者一人ひとりの健康面や生活状況の報告をしています。また月1回「まつひろだより」を発行しています。行事での様子を撮影し、コメントを付けて家族へ送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一人一人が、運営に責任感を持ち続けることを、会議で話し合っています。	毎週全職員が参加する会議を開催しています。そこで出た意見の中には、業務改善や行事企画等、細かな事についても各々意見を出して話し合い、協力体制を築いています。また職員の資格取得についても、専門書の貸し出し等、支援体制を構築しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は基準法に鑑み、給料は能力の発揮によって昇給を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術・知識向上の為、法人内では月に一度研修を行い、法人外の研修にも参加してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の定期的な連絡会に参加し、勉強会にも参加させていただいています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情の異変行動を感知し、不安を取り除く手段等で接しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までと違ったサービス例えば、道具の購入、通院の必要性、その度に家族の承諾を得ております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の残存能力を生かし本人・家族等で先ず話し合いをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけその様な関係でと、会議で話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の大切な方を支援させていただいていることを念頭におくことを話し合っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、ホームに来て頂ける様な雰囲気作りを心掛けています。	一番なじみのある関係者として、家族にできるだけ多く来訪していただけるよう、「まつひろ便り」で呼びかけるなど努めています。家族の来訪は比較的多く、以前住んでいた家の近所の方が来訪し、会話がはずんだりすることもあります。遠方にある病院への通院を続けている利用者もいます。昔なじみの商店街等への買い物は年々難しくなっていますが、できるだけ馴染みの商店で買物ができるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のプライドを尊重し楽しく、気持のよい生活を営める様、支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	郵便物が継続して届く方もおられるので、連絡の時体調・日常生活の御様子を尋ねております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の環境は、全く異なるので、長く時間をかけて把握に努めております。	ホーム独自で作成したフェイスシートを活用して、生活歴、趣味や好むこと、利用者が今まで大切にしてきたこと、家族としてホームに伝えておきたいこと等とともに、日常の関わりやボランティアからも情報収集するなど、利用者の思いや意向の把握に努めています。	把握した利用者や家族の思い・意向について、細かいことでも記録を取ることが期待されます。また、職員間で共有を深める等、さらなる利用者本位のケアの実践に活かせるよう工夫してはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を参考に、急な変化をできるだけ緩やかに過ごして頂く様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安全を最優先し、残存能力をできるだけ引き出し思考能力も引き出す努力をしております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議で個々の計画をたて、実践できる様努力しております。	介護計画については、毎月のモニタリングや月1回の職員会議で話し合いを行っています。変更のある場合はその都度話し合い、作成しています。年に1回は利用者、家族、職員と共に話し合い、介護計画を作成しています。アセスメントやモニタリング結果が、ケアの実践に活かされていく状況です。	目標やサービス内容について、身近なことから取り上げて具体的に表現することにより、ケアの実践やモニタリングを行うことが期待されます。また今後は、簡単でわかりやすい表現での計画を作成できるよう、職員間で検討してはいかがでしょうか。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週に一度の会議で共有し実践にむけております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のプライドを尊重し取り組む努力をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議で心身の力を発揮できることを発見しながら(例えば掃除や水やり)支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所に開院している、かかりつけ医と常時、連携しています。	ほとんどの家族や利用者がホームの協力病院を希望しており、1ヵ月に1回の訪問診療と年1回の健康診断を受けています。歯科、眼科などの受診が必要な場合には、協力医に紹介状を書いてもらい受診しています。これまでかかりつけの医療機関についても、必要に応じて通院介助を行っています。急変時の連絡体制も整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と常時、連携をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近所のかかりつけ医と常時、連携をとっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族等と事業所でできることを、十分に説明しています。	入居時には、重度化した場合について話し合いの機会を持っています。できる限りホームで生活が継続できるよう取り組み、利用者や家族に説明をして意向を確認しています。利用者の状況に合わせて、かかりつけ医や家族と話し合い、ホームとして可能な限りの支援を行っていく方針です。職員は、これまでも看取りの経験をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的な訓練を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くの公園が避難地で地域での協力も、町会でもお願いしています。また、避難訓練も、夜間を想定し実施しています。	消防署に届け出をして自主訓練を行うとともに、災害時に地域の協力を得られるよう働きかけています。また、ホームの駐車場を避難場所として提供するなど、地域への貢献も行っています。備蓄について、飲料水、食料、懐中電灯等があり、備蓄品を増やしました。	災害時における地域との協力について、話し合いを継続し、また、一緒に訓練を行うなどして、相互防災協力体制が確立することが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を人生の先輩として尊重し、言葉使いは丁寧語で実践しております。	職員と法人は個人情報保護に関して書面を取り交わしており、勉強会も行っています。特に、利用者の生活歴とともに、意向や自己決定の尊重を重視し、利用者一人ひとりに対して尊重した言葉遣いに気を配って接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定能力を引き出し、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと個々のペースに合わせていける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型・洋服等、身だしなみが大切なので個々の好みに合わせ、支援しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を一緒に考えたり、工夫しながら、一緒に準備や片づけをしています。	「食べたいものを楽しく食べる」ことを大切に、献立は毎朝利用者と話し合い、買い置き食材等も考慮しながら、偏りがないよう職員が考えています。食材は、地元の八百屋や魚屋、生協等からその都度配達してもらいます。味付けは、利用者の健康を考えた味を心がけて調理しています。下ごしらえや準備、後片づけ等は利用者と一緒にしています。職員は利用者と一緒に食べ、時には、屋外でカラオケを楽しみながら食事をすることもあります。	栄養の偏りやカロリー等について、栄養士に定期的に確認してもらう等、栄養に関することについて、専門家に相談できる方法を検討してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜中心を中心にした食事・薄味を心掛け、水分補給にも気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを、個々で行ってもらっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用されている方は、昼間はトレーニングパンツにさせていただき、夜間のみおむつを使用していただいています。	排泄状況を記録してパターンの把握に努めており、必要な方には時間をみて声かけを行っています。日中や夜間を問わず、自室のトイレで排泄できるよう支援しています。夜間に紙オムツを使用する方でも、昼間はリハビリパンツを使用し、トイレでの排泄を促がしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を取り入れヨーグルト等食べやすいものも摂ってもらっています。また、朝食時に冷たい湯ざましも飲んでいただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の際に個々の希望を伺い入浴していただいています。	現在は、週2回の入浴を基本としていますが、利用者の意向や状態により、週3回入浴できる体制を設けています。二人介助が必要な利用者に対しても、職員二人で対応しています。入浴を好まない利用者に対しては、時間をおいて度々声かけを行っています。利用者が、安心して気持ちよく入浴できるよう、また入浴を楽しめるよう配慮した声かけに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の様子を観察しながら、休 息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	複数の職員の確実な服薬確認を、 実行しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	カラオケや編み物等、気分転換 を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけるよ うに支援している	今だ、職員不足の都合で、近所 の公園に行くにとどまってお ります。	日頃は近くの公園へ散歩に出 かけ、外気に触れるとともに、 季節の花を楽しみます。その他 、遠足に出かけたり、町内の地 域行事に参加したりしてカラ オケを楽しむこともあります が、外出の機会が少ないのが 現状です。	外出の機会が減っていますが、 外気に触れることや社会交流の 大切さについては充分理解して います。今後は、個別の外出も 含め、外出する機会の確保につ いて、家族やボランティア、地 域等の協力を得ることも含め て具体的な方法を検討し、実 践に結びつくことが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	盗られ妄想の方が複数おられ るので、まだ支援に至っており ません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	できるだけ支援しております。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせる様に、季節感を出したり、毎日の掃除を行っております。	玄関には花や絵を飾り、対面式キッチンからよく見えるリビングには、ボランティアの方が描いた利用者の似顔絵や日めくりカレンダー、色紙で作成した作品で飾りつけをしています。また、少し手狭となりますが、テーブルを置き、なごやかに歓談しやすいよう雰囲気づくりにも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が、過ごせるように座席を近くしたり、支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の環境で馴染めるように、できるだけだけの道具等を持ってきていただいています。また、本人が作成した作品等個々の意思で壁面等に飾っていただいています。	居室には、洗面台、トイレ、手すりが備えつけてあります。利用者は、テレビ、タンス、家族の写真等を持ち込んでいますが、持ち込み品が少ない状況です。そのため、ボランティアの方が描いた利用者本人の似顔絵を飾る等、入居後でもそのままにしておかず、利用者本人が居心地よい居室となるよう取り組んでいます。	利用者本人が落ち着ける雰囲気や、利用者が活躍していた頃の雰囲気が出せるよう心がけ、利用者本人の馴染みの物品などを家族に持参してもらうなどの工夫が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>案内等を、わかりやすく絵を入れたりして示しております。</p>		